

(第8章) 柔道代表選手団・レスリングジュニア世代選手団が来訪

【来訪した訪問団構成】

・柔道チーム：15名

(内訳：コーチ3名、選手10名、トレーナー1名、マネージャー1名)

※8/25～9/1の間、日本武道館で開催される2019年世界柔道選手権大会に出場する選手で構成。

・レスリングチーム：10名(内訳：コーチ2名、選手8名)

※世界カデット選手権優勝者、アジア大会・国内大会の優勝経験者で構成。

●2019年8月16日(金)

台風の影響が心配されたが、柔道代表選手団・レスリングジュニア世代選手団の総勢25名が無事に成田空港に到着。成田空港から新幹線を含めた特急列車を乗り継ぎ、夜間に舞鶴に到着しました。

●2019年8月17日(土)

【柔道選手団】

柔道は、前日の長旅の疲れを癒すため、午前中はホテルで休憩。午後に練習を実施しました。文化公園体育館アリーナを会場として柔道畳を2面(レスリングマットは3面)設営し、舞鶴柔道連盟との合同練習会を実施しました。

練習会開始前には、舞鶴の柔道選手とウズベキスタンの柔道選手団が畳の上に整列し、ミニセレモニーを行い、舞鶴柔道連盟の畠山会長は、「ウズベキスタンの高い技術や、練習方法などを学ばせていただきたい。2020年の東京オリンピックの際には、舞鶴柔道連盟として、全力でウズベキスタンの選手団をサポートしたい。」と挨拶をしました。

練習会には、市内の柔道教室に通う児童や柔道連盟の選手、海上自衛隊からも選手を派遣していただき、両国選手にとって非常に有意義な練習となりました。



文化公園体育館での柔道練習の様子

【レスリング選手団】

ウズベキスタンは、海に出るために2つの国境を越えなければならない二重内陸国であるため、選手団に本市が誇る自然に触れてもらおうと市内での海水浴を実施しました。

選手の中には、海に入ること自体初めての選手もあり、全員が海水浴を楽しんでリフレッシュした様子でした。

午後には、引揚記念館を訪問し、日本人抑留に関する史料やウズベキスタン関係の展示品などを見学。ウズベキスタンと舞鶴の交流のきっかけとなった海外引揚の縁について、詳しく話を聞いていただきました。コーチ、選手は、職員が話す内容に神妙な面持ちで耳を傾けていました。

夕方には、近畿百景の第1位にも選ばれた五老スカイタワーからの絶景を見ていただきました。



レスリング選手団の海水浴



引揚記念館を視察



引揚記念館のウズベキスタン展示会を見学



五老スカイタワー

●2019年8月18日(日)

柔道・レスリングの両競技とも文化公園体育館で合同練習会を実施。柔道は前日と同様、舞鶴柔道連盟との練習を行いました。世界選手権直前で厳しい減量が必要な選手は、個別メニューを行い、その他の選手は技術面の確認と舞鶴選手との組み手などを行いました。

リオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲得したウロズボエ

フ・ディヨルベック選手は、「柔道は日本の武術ですが、ウズベキスタンでもとても人気がある。世界選手権前に舞鶴で直前合宿ができたことで、日本の気候に体を慣らすことができ、とてもよかった。」と述べました。

練習の後には、厳しい練習の疲れを心身ともに癒すため、市内で海水浴を行いました。選手・コーチ全員がとても楽しんでおり、大会前のストレスを発散させていました。



柔道練習の様子



柔道選手団の海水浴

レスリングの練習には、市内のレスリングクラブから多くの児童が参加。選手の中には、2019年世界カデット選手権の優勝者やアジア選手権の優勝者などがおり、世界トップレベルの選手から直接技術を学ぶことができ、クラブの選手にとって実りある練習会となりました。市内の選手からは、「言葉は通じなくても動きや表情で伝えてくれたので意思疎通ができた。ウズベキスタンの選手と世界の舞台で戦えるよう頑張っていきたい。」、ウズベキスタンの選手からは、「舞鶴の子どもたちはとても礼儀正しい。スポーツに限らず、日本といろいろな交友を深めていきたい。」とコメントがありました。



世界トップレベルの技術指導を受ける舞鶴レスリングの選手

●2019年8月19日(月)

午前中は、柔道・レスリングの両競技ともに練習を行い、午後には、市長表敬訪問にて多々見市長と面談。多々見市長は、「選手団の皆さんが来訪することを市民は心待ちにしていた。舞鶴では楽しい時間を過ごしていただき、市民の温かい心に触れていただければ嬉しく思う」、柔道代表選手団のメインコーチであるツラエフ・ファルホド氏は、「舞鶴市民の温かい対応にとっても感謝している。選手は充実した環境で練習ができている」、レスリング選手団のコーチであるカガルマノフ・アヒメト氏は、「引揚から始まった縁を大切にして今後も交流を続けていきたい」と述べました。



庁舎前で市長が歓迎



表敬時の市長挨拶



歓談後の記念品交換



選手団との記念撮影

夕方には、市民交流会を開催。会場には、スポーツ関係者、文化関係者、引揚記念館関係者、舞鶴市民応援団、地域住民など幅広い分野から120名を超える市民の皆さんが参加しました。

交流会では、日本の伝統的な文化に触れてもらおうと餅つきをしたり、市内の箏教室に通う子どもたちが演奏を披露しました。餅つきは各選手

にとって初めての経験で、どの選手も楽しそうにカいっばい餅をついていました。箏の演奏では、子どもたちが「さくら」などの日本の代表的な曲を演奏するほか、最後には今回のために用意したウズベキスタン国歌も披露していただきました。国歌演奏の際には、選手団全員が立ち上がり、手を胸に当てて聴き入っていました。歓談中には、参加者が選手団と写真撮影を楽しむなど、和やかな雰囲気での交流が進みました。

交流会の最後には、2020年のオリンピック出場を記念して、舞鶴柔道連盟会長による万歳三唱で会を締めくくりました。



交流会での市長挨拶



市民との交流（写真撮影）



ウズベキスタン選手にとって初めての餅つき



箏の演奏を披露



箏で国歌演奏



五輪出場を祈念して万歳三唱

●2019年8月20日(火)-23日(木)

【柔道選手団】

20日-22日の午前中は、練習を実施。午後からは、休憩とリフレッシュを兼ねて市内でショッピングを楽しみました。日本の製品は品質が良いというイメージがウズベキスタンでも強く、特に国内メーカーのスポーツ用品に人気がありました。

23日の午前中には、25日から日本武道館（東京都）で開催される2019年世界柔道選手権大会に出場するため、都内へ移動。大会の公式ホテルに到着すると、同国柔道連盟会長やスタッフと合流し、大会への受付を済ませました。

メインコーチのツラエフ・ファルホド氏からは、「初めて舞鶴を訪れたが、食事・宿泊・移動などで選手にストレスがないよう色々と配慮していただいた。本当に感謝している」との感想がありました。



最後の練習会後に記念撮影



都内の大会公式ホテルにて

【レスリング選手団】

20日・21日の午前中は、市内の選手のほか、福井県・石川県・兵庫県などの他県からもチームが参加し、大規模な合同練習会を実施しました。

21日の午後には、ウズベキスタンと舞鶴のレスリング選手で対抗戦4試合を行い、3-1の結果でウズベキスタンチームが勝利しました。

舞鶴チームは残念ながら敗れはしたものの、同世代の世界レベルの実力を体感することができ、選手にとって貴重な経験になりました。



ウズベキスタンー舞鶴チーム対抗戦

22日午前中に舞鶴を出発し、京都経由で成田へ移動。コーチのハリモフ・ラティフ氏からは、「日本で過ごした一週間は、他のどの国よりも素晴らしいものだった。温かい歓迎と対応に感謝している。舞鶴の選手がウズベキスタンに来ていただければ我々も歓迎する。」との感想があり、23日に成田空港から帰国しました。